

【既往症の有無別救急搬送人員の推移について】

過去10年間（2010年から2019年まで）における、既往症の有無別の救急搬送人員（急病による救急搬送）の統計分析を行いましたので公表します。

※ 小数点を含む数値は、小数点第二位を四捨五入しています。

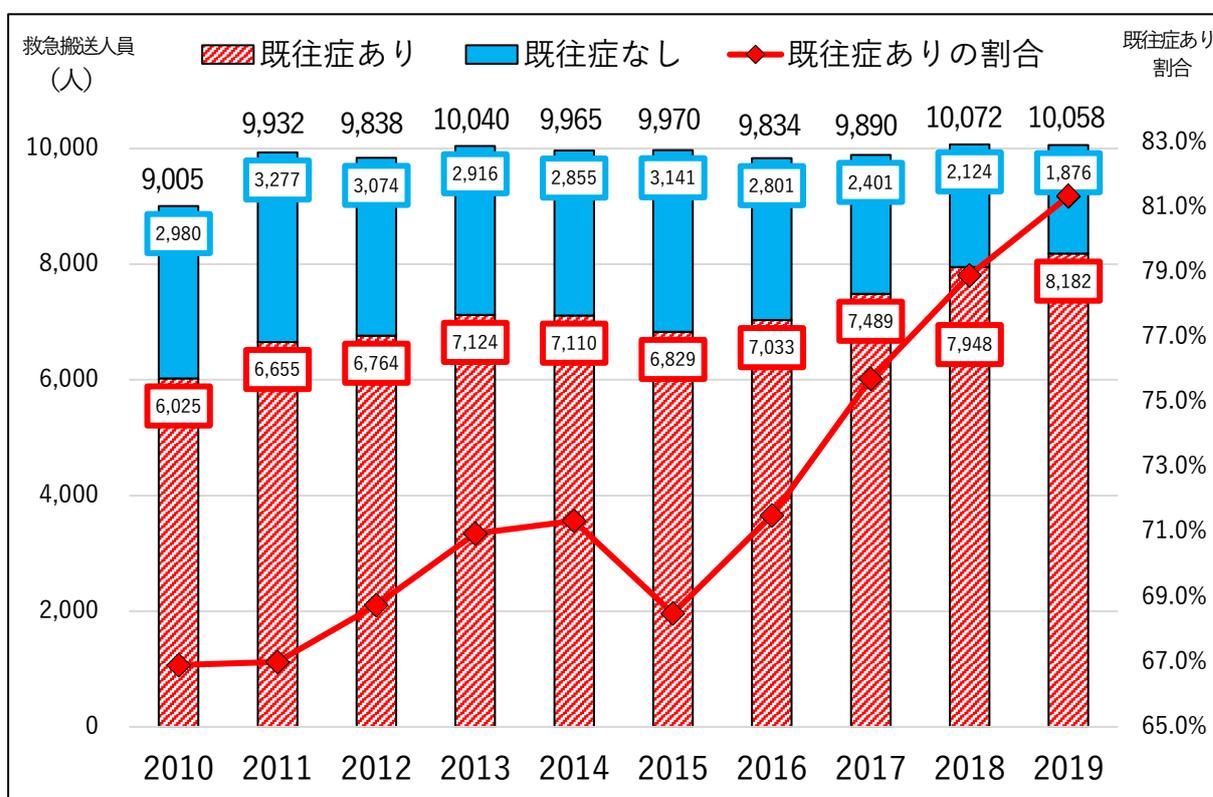
1 既往症の有無別救急搬送人員

2010年から2019年までの18歳以上の急病による救急搬送人員を、既往症の有無別で見ると、「既往症あり」の搬送人員は増加していることが分かります。

2019年の「既往症あり」の搬送人員は8,182人で、2010年と比較して2,157人増加（35.8%増加）しています。

また、全体の搬送人員に占める「既往症あり」の割合でも、増加していることが分かります。

2019年の「既往症あり」の割合は81.4%で、2010年と比較して14.5ポイント増加しています。

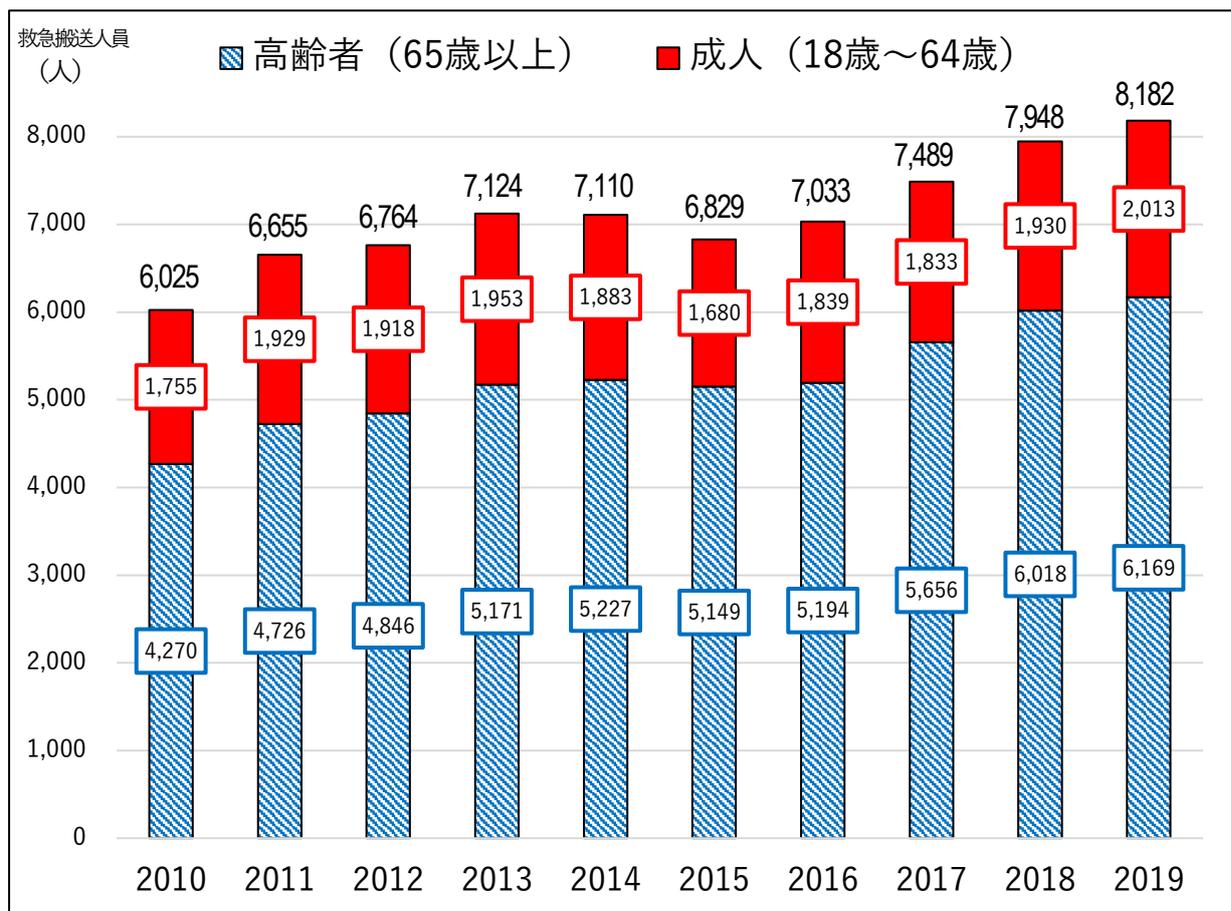


2 「既往症あり」の救急搬送人員に占める「高齢者」と「成人」の推移

上記1の「既往症あり」を「高齢者」と「成人」に分けて2010年から2019年までの推移をみると、いずれの区分でも増加していることが分かります。

2019年の「高齢者」は6,169人で、2010年と比較して1,899人増加（44.5%増加）しています。

2019年の「成人」は2,013人で、2010年と比較して258人増加（14.7%増加）しています。



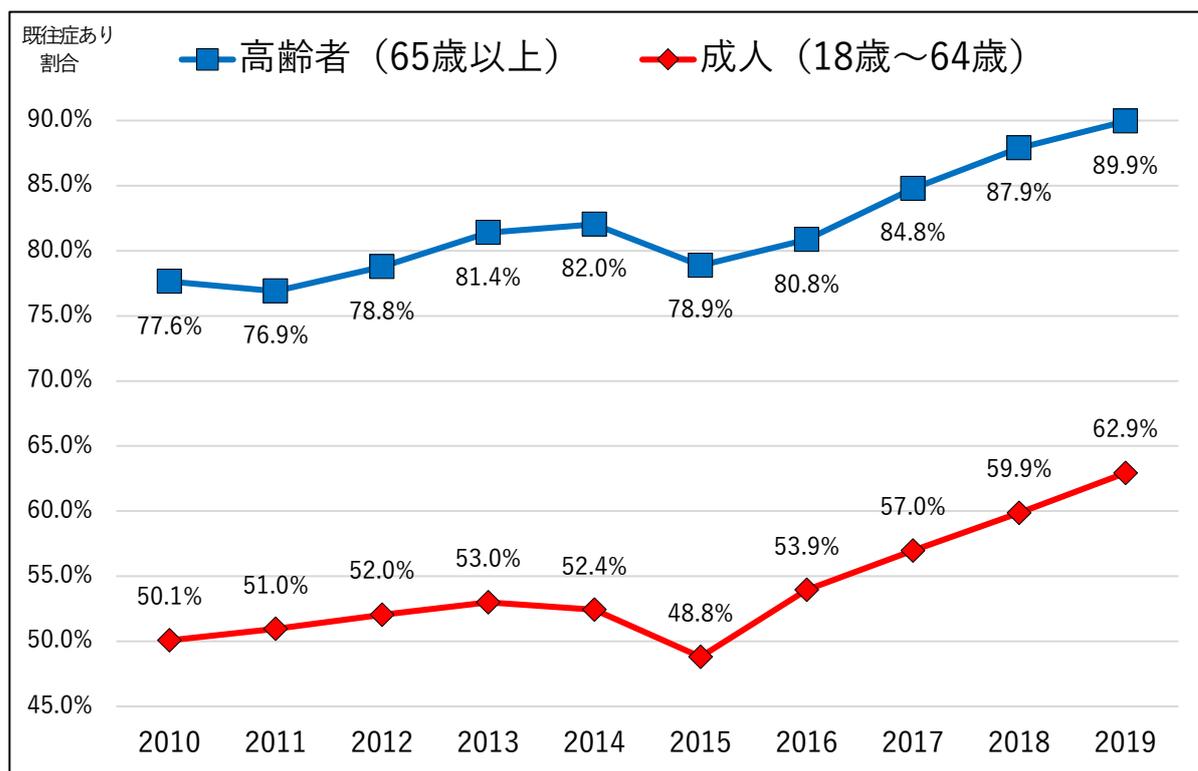
3 各年齢区分の救急搬送人員に占める「既往症あり」の割合の推移

2010年から2019年までの、各区分の救急搬送人員に占める「既往症あり」の割合の推移をみると、いずれの区分でも増加していることが分かります。

2019年の「高齢者」は89.9%で、2010年と比較して12.3ポイント増加しています。

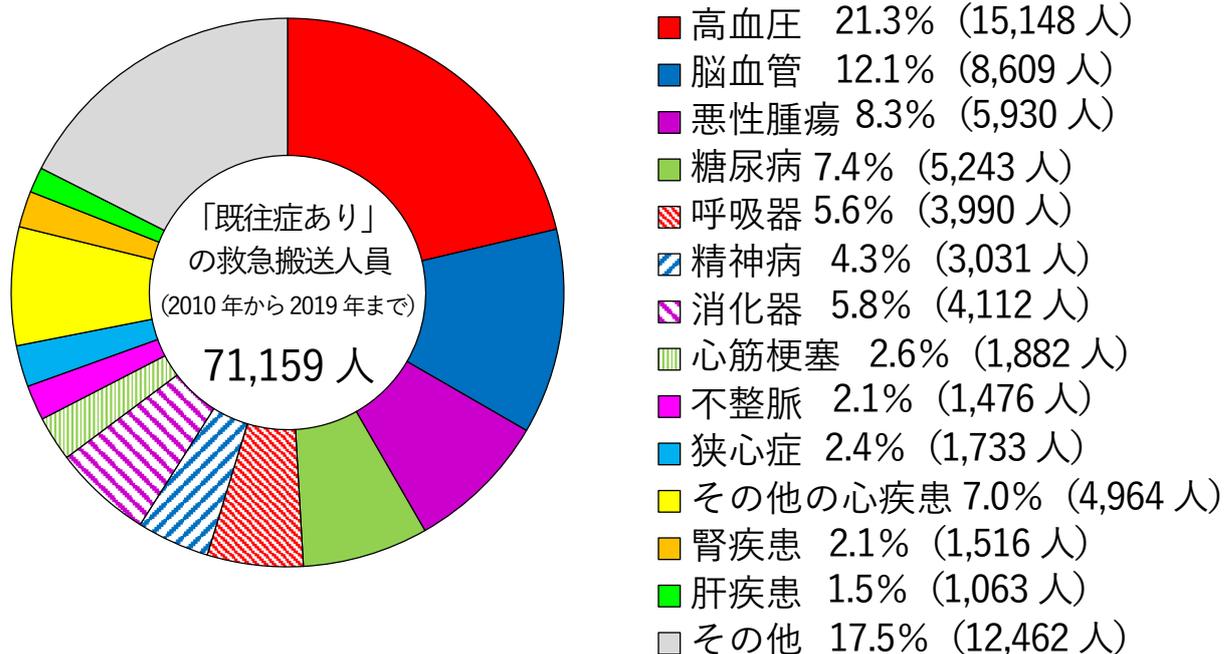
2019年の「成人」は62.9%で、2010年と比較して12.8ポイント増加しています。

(グラフ次ページ)



4 既往症の種類別割合

2010年から2019年までの既往症の種類別割合をみると、「高血圧」が最も多く21.3%、次いで「脳血管」が12.1%、「悪性腫瘍」が8.3%、「糖尿病」が7.4%と続きます。



5 主な既往症の種類別救急搬送人員の推移

2010年から2019年までの主な既往症の推移をみると、最も増加しているのは「高血圧」です。2019年は1,859人で、2010年と比較すると702人増加（60.7%増加）しています。

「悪性腫瘍」は、2019年は739人で、2010年と比較すると301人増加（68.7%増加）しています。

「糖尿病」は、2019年は598人で、2010年と比較すると122人増加（25.6%増加）しています。

「脳血管」は、2019年は759人で、2010年と比較すると182人減少（19.3%減少）と、唯一減少しています。

